
闇に蠢く。

風唄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇に蠢く。

【Nコード】

N8125A

【作者名】

風唄

【あらすじ】

やつは、現れた、ある夜、闇夜の中でさえ、はっきりと見える、漆黒の、闇。

俺は…ある新月の晩、一度…一度だけ見たことがある…

それは…闇の中で蠢く闇、

闇の中でさえはつきり見える漆黒の…闇、

光など存在しない、

そこにあるのはただただ…闇、

全てを飲み込む…闇、

あれを気付いてはいけない、

あれに気付かれてはいけない、

俺の…失われたと思われてた…動物的直感が…俺に警告を発している、

俺は、気付かないふりをして…通り過ぎた、

後ろで、闇が、振り向いた、気がした、

あれから、数年が過ぎた、

俺は…あの存在など、忘れていた、

だが、あるとき、俺の人生の転機は訪れた、

ある、夏の日、俺は深夜のコンビニでバイトをしていた、

客は居ない、

店員も俺以外居ない、

俺一人の空間、

なにをするでも無く、

ただ、外を見ていた、

あの時、あれが、現れた、

闇に蠢く闇、

漆黒の中でさえはつきり見える…暗黒、

俺は、なるべく、自然なように、目をそらした、

クーラーが効いてる店内に居る筈なのに汗が滴る、

喉が渴く、

俺は、ごく自然なように掃除を始めた、

…少しでも、やつとの距離を離れたかった、

…

俺の第六感は、警鐘を鳴らし続けている、

やつが、後ろで牙を剥いている気がする、

汗が滴る、とめどなく、滴る、

…バンッ！

俺の肩に何かが乗った、

心臓の音が聞こえる、

俺は勇気を出して振り向いた、

そこには、人が見えた、

…客？

俺は安堵した、

……客が申し訳なさそうにレジを催促する、

俺は、慌てて、レジに向かった、

この日から、俺は、やつが、頭を離れなかった、

俺は同僚に防犯カメラを確認させた、変な客が居た、と、嘘をついて、

同僚はなにも映っていないと、言った、

それはそうだ、そんな客はいないのだから、

俺は同僚に黒いものが映っていないかと問いた、

そんなのは映っていないと同僚は言った、

俺は、ビデオを見た、何度も巻き戻し、早送り、

そこには、俺が映っていただけだった、

同僚は不審そうな顔だった

俺は、それ以来、コンビニのバイトは辞めた、また、やつにあうのが恐かったから、

ある朝、俺は街に出た、

友達と、遊びに、出た、

楽しかった、

やがて、いつの間にか、日が暮れた、

俺は、友達と飲んでいた、

小さな、町外れに、ポツンと佇む、屋台で、

やがて、酔いも回り帰ることにした、

俺は、友達と別れ、歩いて家に向かった、

あの、コンビニの前を、通り掛かった、

そうして、やつが、現れた、

戦慄が走る、脳は逃げろ、と、全身に指令を下す、

全身はその命を拒否する、

否、受諾できない、

全身は金縛りにあったように動かない、

やがて、やつが、こちらを向いた、気がした、

やつは、闇、顔など見えない、

…あるのかさえわからないが、

しかし、俺は、直感する、

やつは、こちらを向いて、笑っていると、

俺の脳が下した指令はようやく、実行される、

俺は、弓から放たれた矢のように、夜闇の中を、走り去った、

俺は逃げ切った安堵と共に、恐怖した、

やつに見つかった、と、

それから、俺はやつを調べた、

伝説、伝承、都市伝説、噂、果てはホラー映画まで、

だが、やつは、わからなかった、

ある日、俺は、外に出た、

勿論、昼間に、

そうして、気付いた、

後ろをつけている何かがいると、

どこを曲がってもついてくる、

間違いない、やつだ、

俺は、やつが現れたときの対策として持っていた、刃物を、懐から、
やつに気付かれないように、取り出した、

次のかどを曲がったら決めよう、

そう、心に決め、次のかどを、曲がる、

ザシュ、

俺は、やつに、刃物を、突き刺した、

やつは、倒れた、

やつは、死んだ、

俺が、殺した、

やつを、俺が、殺した、

俺は歓喜した、

やつは、死んだのだ、

俺が、ケリをつけたのだ、

俺は、狂喜し、足取りも軽やかに、帰ろうとした、

：

足が止まった、

やつが、いた、

こちらを、見つめていた、

やつは、醜い笑いを浮かべ、佇んでいる、

だから、刺した、

念入りに、刺した、

もう、現れないように、必死で刺した、

だが、やつは、現れた、

また、醜い笑いを浮かべて、

また、刺した、

もう、現れないように、

念入りに、念入りに、

そうして、俺は、去った、

だが、やつは、現れた、

何匹も何匹も、現れた、

俺は片っ端から、刺した、

見つけるたびに、刺した、

そうしているうちに、やつは逃げはじめた、

その顔には、醜い、醜悪な、笑いを浮かべて、

だから俺は、刺した、

追いつけて、刺した

やがて、やつらは、集まって来た、

やつらが何かを叫んでいる、

だが、俺に、やつらの言葉など、わかる筈がない、

俺は、やつらのもとに向かい、刺した、

やつらは、何かを叫び、

パン、と、タイヤがパンクしたような、音がした、

何かが、肩と足に、突き刺さる、感覚があった、

だが、俺は、倒れなかった、やつらは、まだ、残っているのだから、

俺は、歩き出した、足を引きずりながら、

やつらのもとに、

そうして、もう一度、

タイヤが、パンクしたような、音が、聞こえた、

俺は、倒れた、

やつらが、何かを叫び、俺の方に向かって来ているのが、わかった
：

(後書き)

最後までお読みいただきありがとうございましたm
な作品ですが読んでいただき、心から感謝致します。
〔 m稚拙

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8125a/>

闇に蠢く。

2010年11月2日04時18分発行